

月に一回、大淵で「かみなり族」の集会があるのを知っていますか。
 ・・・なんて言うと、ちよつと怖そうだけど、実はこの「かみなり族」、ボランティアでヘアカットを行っているグループなんです。ちよつとカッコイイ名前ですね。

ヘアカット・ボランティア

髪鳴族

大淵の特別養護老人ホーム「楽寿園」で生活しているお年寄りは、体の不自由な人が多いので、散髪に出かけるのが困難です。痴ほうや寝たきりなどのお年寄りが生活している特別養護老人ホームや、重度障害者が生活している施設では、入所者の散髪などは深刻な問題になっています。

そんな状況の中、「髪鳴(かみなり)族」のメンバーは、毎月第二月曜日に楽寿園を訪問しています。髪鳴族は、美容組合富士支部に加入している美容院の若いオーナーたちによって、平成三年に結成されました。結成当初は、ボランティアを目的としていたのではなく、経営上の悩みを相談し合ったり、



親ほくを兼ねてレクリエーションしたりするだけでした。

しかし、このままではいけない、自分たちの専門技術を何かに役立たせたい、社会のために貢献したい、と考え始めたメンバーは、美容組合の紹介で平成四年五月から、楽寿園を訪問して無料でお年寄りのヘアカットをすることにしたのです。

メンバーの中の一人、小池さんは、「初めて老人ホームへ行ったときは、はつきり言ってショックでした。それまでは、自分の老後のことなど考えたこともなかったけれど、家族や健康のこと、福祉などについて考えるようになりました。

楽寿園へ通い続けるうちにお年寄りとも親しくなり、月一回の訪問を休めなくなってきました。ボランティアは続けていかないと意味がないと思います。メンバーの間では「やめたら負け」を合い言葉に頑張っています」と話してくれました。



△「あきひめ」の収穫に忙しい落合和一さん(森下)

寒い日が続いています。風邪には十分気をつけましょう。風邪の予防には、外から帰ったら、まずうがい。そしてたっぷりの睡眠とビタミンCをとることが効果的。イチゴは、ビタミンCの女王様と呼ばれており、七、八粒食べると、一日に必要なビタミンCをとることができます。今回は、とっても甘いイチゴの話です。

「イチゴ」

今がしゃん!
見ごろ
食べごろ

種を経て、今では「あきひめ」が主流になっています。市内で栽培されているイチゴの八割はこの「あきひめ」。酸味が少なく、大粒なのが特徴です。

ところで、なぜ富士市でイチゴ栽培が盛んになったのかというと、富士山の自然が関係しています。本来は初夏の味覚だったイチゴを冬から春にかけて出荷するため、イチゴの苗を八、九月ころに富士山の二合目へ運び、そこでにせものの「冬」を感じさせます。その後、ふもとへ戻ったイチゴは、ビニールハウスの中で「春」を感じ、赤く甘い実をつけるのです。

おいしいイチゴの見分け方
 へたが濃い緑色で、実の全体が赤く、つやがあり、表面の粒々(種子)が立っているもの。まず、へたの近くを、そして最後に一番甘い先の部分を食するのが「通」なのだそうです。